

市長から市民の皆さまへ 市長メッセージ

新年あけましておめでとございます。皆さまには、健やかに新春をお迎えのこととお喜び申し上げます。

本年が、皆さまにとつて、幸多く輝かしい年になりますことを心からお祈り申し上げます。

さて、昨年は、大阪や北海道で発生した地震や日本各地での猛暑、豪雨や台風の襲来など、自然災害の多い年でした。全国で想定を超える災害が多発する中、市民の皆さまとともに、自助・共助・公助の連携を図る中、災害に強いまちづくりの充実に取り組んでまいりたいと考えております。

そのような中で、本年6月2日には、野洲川河川改修により整備された放水路(野洲川の笠原より下流は全て人工的に整備された放水路)の通水から40年を迎えます。野洲川は、古来より「近江太郎」と呼ばれた暴れ川で、洪水のたびに沿川に住む人々を苦しめてきました。

昭和28年の大洪水をきっかけに、野洲川河川改修の機運が高まり、地元の故宇野宗佑元内閣総理大臣を始めとする先人の「尽力により、国の直轄河川の指定がなされました。特に中洲学区を分断する形で放水路が整備されることから、地元で大きな反対運動があった中で、最終的には地元の皆さまの安全で安心なまちづくりに向けての深いご理解を賜り、多くの貴重な美田を提供いただき、世紀の大事業といわれた河川改修事業が、昭和46年の事業着手を経て、昭和54年6月に放水路の通水が行われました。

野洲川が現在、100年に一度の大雨に耐え

られる河川となりましたのも、先人と地域の皆さまのご尽力のお蔭であり、改めて感謝申し上げますところとです。本年は、野洲川改修の歴史や災害に備えることの重要性を市民の皆さまと改めて共有してまいりたいと考えております。

さて、市政としましては、本年、引き続き、環境施設の更新を重点施策として、2021年10月の操業開始に向けて取り組んでまいります。

待機児童対策については、平成30年度から3年間を「待機児童対策強化期間」と定め、さまざまな施策を組み合わせ、待機児童の解消に向け、取り組みを進めており、本年4月には「ふるたか虹のはし保育園」が定員204人で開園する予定です。併せて三宅町地先(市民ホール北側)での定員120人の新保育園の来年4月開園に向けて取り組んでまいります。また、本年10月から予定されている幼児教育・保育の無償化に向けても準備を進めてまいります。

また、高齢者などの皆さまが住み慣れた地域で住み続けられるよう、地域の身近な相談・支援の拠点として、本年4月にエルセンター敷地内に守山学区・小津学区を対象とした「南部地区地域包括支援センター」を開設いたします。加えて、地域密着型施設の整備や地域交通の充実を図ってまいります。

さらに、障害福祉の充実として、川田町地先(野洲川右岸側)において、社会福祉法人湖南会によります湖南地域障害者生活支援センター「すくらむ」の移転およびグループホームの開設を本年4月に予定しております。

本年も、市民の皆さまのご協力・ご支援をいただきながら市政のさまざまな課題の解決に取り組む、真に住みやすさを実感いただけるよう取り組んでまいります。

来る1月12日(土)には、県選択無形民俗文化財である「勝部の火まつり」「住吉の火まつり」が執り行われます。守山が誇る伝統行事を継承いただいている地域の皆さまに心から敬意を表すところとです。一昨年、勝部自治会と幸津川自治会との間で「菜の花協定」が締結され、今回は、幸津川町で栽培された菜種を使用し、勝部の火まつりの大松明が作られると聞いております。皆さまもぜひお出かけいただき、迫力のある松明の奉火をご覧ください。

1月13日(日)には、各自治会の自衛消防隊や消防団の皆さまとともに、今年一年の安全・安心を誓う「消防出初式」を開催いたします。日ごろから地域の安全・安心のために活躍いただいております皆さまに改めて感謝申し上げます。

また、1月14日(月・祝)には、成人式典と祝賀駅伝を開催いたします。守山、そして日本の将来を担う若人の成人を市民の皆さまとともに祝福したいと存じます。

ご存じのとおり、天皇陛下の御退位および皇太子殿下の御即位により、本年5月から新元号となります。平成の時代が終わり、新たな時代となつてまいります。この新たな時代が、平和と幸せを享受でき、日本社会が持続可能な成熟した社会となるよう市民の皆さまとともに取り組んでいかなければならないと考えております。